

みんなファンド 2004 年度 助成事業報告書

平成 17 年 4 月 25 日

フリガナ 団体名	トクテイヒエイリカツドウホウジン 特 定 非 営 利 活 動 法 人	ワタリ い き い き 亘 理
事業名	任意団体から特定非営利活動法人にステップアップ「まちづくり事業」	
フリガナ 連絡担当者お名前	コ マツ バラ ジュ イチ 小 松 原 壽 一	
担当者	電話 0223-34-4470	F A X 0223-34-4470
	E-Mail npo-ikiiki.watari@hana.plala.or.jp	
<p>助成金を使って行った事業について、記述してください。 (活動の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください)</p> <p>ボランティア活動を、地域社会との連携を深めてさらに裾野を広げるために、趣旨に賛同する地域住民の誰でもが参加できる地域に開放された組織として、これまでの任意団体(同窓会組織)の枠を外した N P O 法人化を発案し認証を得ました。</p> <p>N P O 法人の運営には、経営資源いわゆる「人・もの・金・情報」のバランスのとれた充実が不可欠です。</p> <p>任意団体から特定非営利活動法人へとステップアップそして法人のスタートアップにあたって、必要なこれら経営資源を確保し活動を活性化するために次の事業を実施した。</p> <p>ひと : N P O 法人「いきいき亘理」の設立について、町の好意によって広報紙に掲載し P R させて頂くと共に、時期を失せず町役場・支所・公民館・体育館・社協・スーパーなどにポスターを掲出し、チラシを置いて<u>広報活動を展開して会員の拡大に努めた。</u></p> <p>また、団体運営・人材開発・広報活動等スタッフのマネジメントに関わるノウハウについてスキルアップを図り、活動を広げ地域課題の解決に成果を上げるため、せんだい・みやぎ N P O センター様や、みやぎ N P O プラザ様の中間支援組織による講座・研修会に積極的に参加した。</p> <p>もの : 「花と緑のまちづくり」を推進するため、国道沿い緑地帯の適地を選定して花壇を造成し、低木苗木や春・秋 2 回季節の花苗を植栽して花壇の灌水・除草・追肥等の維持管理をするほか、周辺のゴミ拾い清掃・道路路肩の雑草の刈込みによる環境の美化に取り組んでいる。</p> <p>花木の植栽管理にとって肝腎なことは適切な水遣りですが、昨夏は連日真夏日の猛暑続きで大変苦労した。(連日の水遣りも焼石に水であった)</p> <p>灌水用として 200 リッターの水タンクを購入し、会員の軽トラックを借り上げ、これに積載してそれぞれの花壇間を効率的・機動的に移動して管理することとした。</p> <p>また、緑地帯ならびに花壇周辺の雑草刈込みのため刈払い機を購入した。</p>		

助成金を使って行った事業について、記述してください。(続き)

かね : NPO設立認証申請時の正会員数は17名・支援会員16名であったが、その後の会員募集の広報活動・社会啓発活動により正会員数は29名・支援会員数は21名となり計50名と会員数を増加することができた。

このことにより、経常的にかかる管理費的経費については、会費収入によってある程度の安定的な確保が計られるようになった。

なお、みんなファンドから助成金の交付を頂きましたことにつきましては、心から感謝を申しあげる次第であります。

情報 : せんだい・みやぎNPOセンター様のNPO情報ライブラリーへの登録により、活動に関する情報発信・公開がなされ、支援をいただけるようになりました。別途、登録情報の更新をさせていただきます。

また、このようなNPOの中間支援組織からのタイムリーな情報をE-Mailや郵送によって適時享受できることは大変にありがたく存じております。

インターネットによる情報発信手段としてホームページを開設するためパソコンのアプリケーションソフト(IBM ホームページビルダーVersion9)を購入して作成にチャレンジしているが悪戦苦闘中で、いまだ完成していないことをお詫び申し上げ報告と致します。

当初の事業目的はどの程度達成できましたか

申請書に記載した事業目的

NPO法人設立を契機として、今後さらに地域課題を掘起こし事業開発によって、やすらぎのある「まちづくり事業」へのボランティアの機会を創出し、生きがい・ふれあい・自己実現・社会貢献をとおして地域の活性化や地域文化の創造を目指し、公益の増進に寄与することを目的とします。

目的の達成度

町内の全戸に配布されるマス媒体「広報わたり」に掲載されたことはNPOの地域社会認知に非常に成果があった。

新規に、ひとやすみパーキング2ヶ所に花壇を造成し事業を拡大し「花と緑のまちづくり」に本格的に取り組んだ。

達成できない部分があった場合には、考えられる原因をお書きください。

事業を拡大しボランティアの機会を創出して、広報活動によって参加を呼びかけても、ポスターやチラシ配布のやり方は一方通行であり、効果はあまり期待できない。双方向のコミュニケーションによって「志縁」を広げることが大事と反省します。

今回の事業によって、団体全体の活動にどのような成果・効果がありましたか

今回の助成金により、充分とは言い難いがNPOのスタートアップにあたってのインフラの一環を整備することができました。

緑地帯には花苗でなく、つつじ類の低木苗木を自分の庭から掘起こして移植した場所や、ひとやすみパーキングの緑地の様に面積が広い所は、植樹した周辺の雑草を草刈り鎌で刈込むには大変な労力を要します。

動力による刈払い機(備品)を購入させていただいたことにより省力化が図られると共に、年間を通してきれいな緑地景観を保全することが可能となります。

また、200 リッターの水タンク(備品)を購入させていただきました。今後春から秋にかけて花壇への灌水作業に非常に役立てることが出来ます。

今回の助成事業を行って見えてきた課題は何ですか

また、その課題解決に向けて必要なものは何ですか

NPOの活動を維持し存続のために、また、新しい発展のためにどのように事業を展開するか？ 人・機材・資金・情報などの調達、結局、何らかの方法で外部環境から導入されなければ組織自体が成り立たないのがNPOであると言えます。

その意味においてNPOは環境依存型の組織であり、地域社会から如何に支持を得るか、社会貢献をなしていると認知されるかが非常に重要な課題となります。

そのためには、パンフレット等を作成して配布する等により、何をするか、したかをデスクロジャーし、環境との円滑な関係を構築することが必要です。

特に、社員に対する持続への動機づけ、資金面で支援いただく賛助会員へのアカウントビリティは不可欠の要件であり、人的資源の消耗を避けるために「信頼されるNPOの7つの条件」を鏡として日々研鑽することが必要と考えます。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか

また、その際に必要なものは何ですか

事業の拡張展開の思いを実現するためには並行して経営資源の充実が不可欠です。

特定非営利活動に係わる事業の活動資金を得るためには、会費収入以外に、その他の事業(収益事業)も行う必要性を痛感します。

任意団体のボランティア活動で始めた「花と緑のいっぱい運動」は、町の「思いやりの心で育てる花と緑のまちづくり」事業として継承され、NPOと行政との協働関係が構築されつつあります。

今後、新たに造成する花壇については、その維持管理を行政の業務委託事業として実施する方向で調整中です。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	金額（円）	内訳
ファンド助成金	100,000	
団体負担金	5,307	
合計	105,307	

支出の部

項目	金額（円）	内訳
NPO法人設立諸経費	18,735	法人公印・ゴム印作成費
広報費	13,629	アプリケーションソフト (ホームページビルダー)
	9,576	プリンターインク購入
	7,569	ポスター・チラシ作成費等
通信費	2,840	連絡用ハガキ・切手代
研修費(交通費を含む)	19,500	NPOマネジメント実践講座
		NPOらしく会計講座
		災害ボランティア連続講座
備品費	19,000	刈払機の購入
	14,458	灌水用200リッター 水タンク購入
合計	105,307	

ファンドに寄付をいただいた方々へのメッセージをどうぞ。

任意団体から特定非営利活動法人にステップアップ、そして新たなスタートアップにあたって資金難の折、貴ファンドからの助成によりお蔭様をもちまして活動の初動体制をある程度固めることができました。

ファンドへのご寄付のご芳志に報いるためにも、真摯に社会貢献・公益の増進に寄与する決意を新たにします。

有難うございました。